令和８年度

全国学力・学習状況調査
結果の概要

令和８年１０月

岩沼市教育委員会

令和８年度全国学力・学習状況調査の調査結果概要について

令和８年度全国学力・学習状況調査の岩沼市の結果の概要をお知らせします。

① 調査の概要

調査実施日	令和８年４月２０日（月）～５月２９日（金）
調査対象	①児童生徒:小学校６年生（381 名）、中学校３年生（320 名） ②学校: 小学校（4 校）、中学校（4 校）
調査事項	小学校：国語、算数、児童質問調査 中学校：国語、数学、英語、生徒質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（４技能：聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）の全面 CBT（Computer Based Testing）化 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

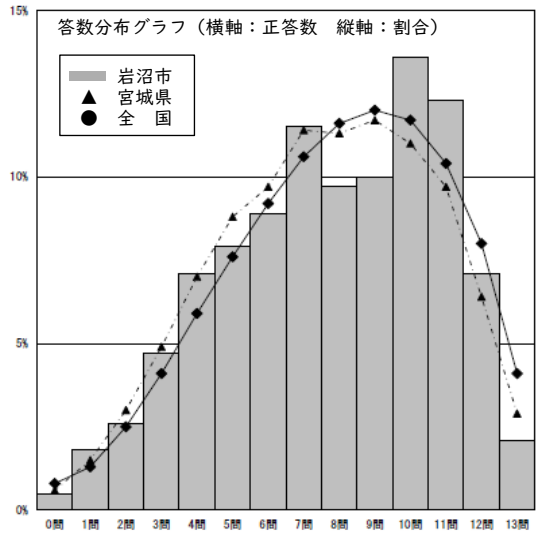
② 全国・宮城県・岩沼市の正答率・ＩＲＴスコア結果概要

令和８年度	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国	60.9	56.4	63.9	57.0	499
宮城県（仙台市を含む）	58	54	64	55	489
岩沼市	60	54	64	54	488

※正答率は、全国は少数第一位、宮城県・岩沼市は一の位まで公表されました。

③ 小学校の結果概要

小学校国語



県平均を上回り、全国と同等の層の厚さ

岩沼市の平均正答率は 60%（宮城県 58%、全国 60.9%）と県平均を上回り、全国と同等の水準となっています。

高得点層：10～13 問正答の割合が高い

高得点層（10～13 問正答）の割合を合算すると、（岩沼市 35.1%、宮城県 30.0%、全国 34.2%）。特に 10 問正答（13.6%）や 11 問正答（12.3%）のゾーンが厚い分布となっています。

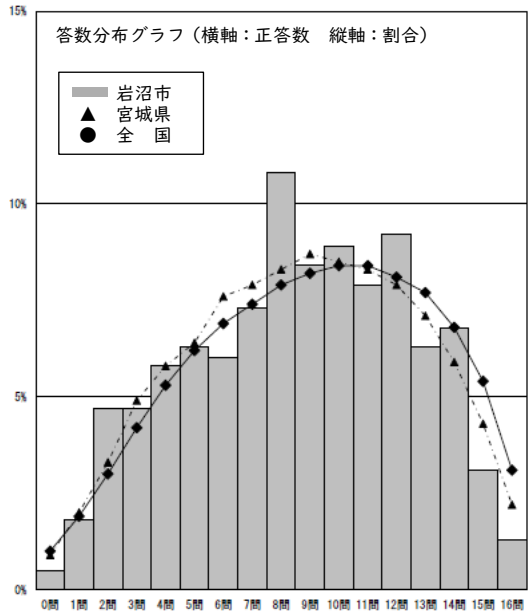
課題となる点

一方で、0～5 問の正答にとどまる下位層の割合を合計すると、全国よりも若干厚くなっている傾向があります（岩沼市 24.6%、宮城県 25.8%、全国 22.2%）。

【質の高い教育の具現化】

文部科学省の次期指導要領に向けての「論点整理」では、単なる個別の知識暗記ではなく、「言葉を用いて思考を深める力」や「文章の構造・内容を捉えて自らの考えを形成する力（タテ・ヨコの関係性）」の育成を重視しています。岩沼市の児童は、文章を深く読み解き、複雑な問いに対しても自分の考えをまとめ上げる「高い思考力」がしっかりと身に付いてきています。日頃の国語科授業における「問いを持たせる工夫」や「対話を通じた意味理解の深まり」が成果として表れています。

小学校算数



ばらつきの小ささと全体の安定感

岩沼市の平均正答率は（岩沼市 54%、宮城県 54%、全国 56.4%）県平均と同等となっています。注目すべきは得点のばらつきが非常に小さく、集団としてまとまりがあります。

中央値周辺（8 問正答）の層の厚さと低得点層の少なさ

「8 問正答」の児童が（岩沼市 10.8%、宮城県 8.3%、全国 7.9%）と高く、中央値前後にしっかり定着しています。一方で、0～1 問といった極端な低得点層（岩沼市 2.3%、県 2.9%、全国 2.9%）も低く抑えられています。

課題となる点

全国・県と比較して下方の方が厚い傾向があり、2（3）、（4）「単位量と割合」、4（3）「データの活用」の正答率がやや低くなっています。

【多様性の包摂・質の保障の具現化】

「論点整理」では、認知特性や背景が異なる「多様な子供たちを包摂し、確かな基礎・基本（中核的な概念）を保障すること」が力強く打ち出されています。算数において標準偏差が小さく、中央値付近の層が厚いということは、学校現場で丁寧な個別最適な学びや補習指導が行われ、学習の置き去りが起きにくい環境が整っていることを意味します。引き続き、正答率の向上につながる取組を継続していく必要があります。

小学校意識調査

全国平均を上回った設問	岩沼市	宮城県	全　国
自分には、よいところがあると思いますか	54.3%	44.2%	42.0%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	51.1%	46.6%	46.0%
自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	56.3%	52.5%	50.7%
総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め、発表する活動に取り組んでいますか	51.1%	45.9%	44.4%
国語の勉強は得意ですか	45.7%	40.3%	38.8%
算数の勉強は得意ですか	34.8%	29.5%	31.6%

全ての土台となる「自己肯定感」の高さ

全国平均を 10 ポイント以上上回る、「自分によいところがあると思える」子供たちの姿は、岩沼市の教員が日々の学校生活の中で一人一人の存在を全面的に受け入れ、心理的安全性をしっかり担保してきた成果と考えられます。学校での「安心感」と「自信」があるからこそ、子供たちは失敗を恐れずに次のステップ（未知の学びや他者との関わり）へと踏み出す主体性を発揮することができます。

同時に、この高い自己肯定感の背景には、家庭において保護者の皆様が温かく見守り、子供のありのままを包み込みながら支えてこられた日々の関わりがあります。学校と家庭の双方が深い信頼関係で結ばれ、共に温かなまなざしを注ぎ続けることこそが、子供たちが自らの人生をたくましく舵取りしていく大きな力となります。

「多様性の受容」と「自己調整」が生み出す当事者意識

これからの時代に求められる「学びに向かう力、人間性等」の要素として、「他者との対話や協働」や、自分の思考や行動を客観的に把握して学習を自己調整する「学びの主体的な調整」が極めて重要視されています。岩沼市の子供たちは、「自分と違う意見を面白がる（多様性の受容）」ことができ、「自分で学び方を工夫する（自己調整学習）」子が多い傾向にあります。これはつまり、与えられた正解を覚える受動的な学びから脱却し、協働的な学びの中で考えを広げつつ、自分に合った学び方を自ら選択し調整する「自立した学習者」へと成長していることの表われです。

非認知能力と認知能力の「好循環」

国語や算数に対する「得意だ」という明確な自信（認知能力）は、詰め込み教育によっては生まれません。自己肯定感や主体性といった見えない力（非認知能力）が土台にあるからこそ、各教科の学びに向かう意欲が高まり、結果として学業への自信に結び付くといえます。今回の結果は、「非認知能力と認知能力の好循環」がデータとして表れたものと捉えています。

小学校まとめ

岩沼市の子供たちが持つ「真っ直ぐでワクワク学べる力」は、市が目指す「自立した学習者」の育成に向けた大きな強みです。

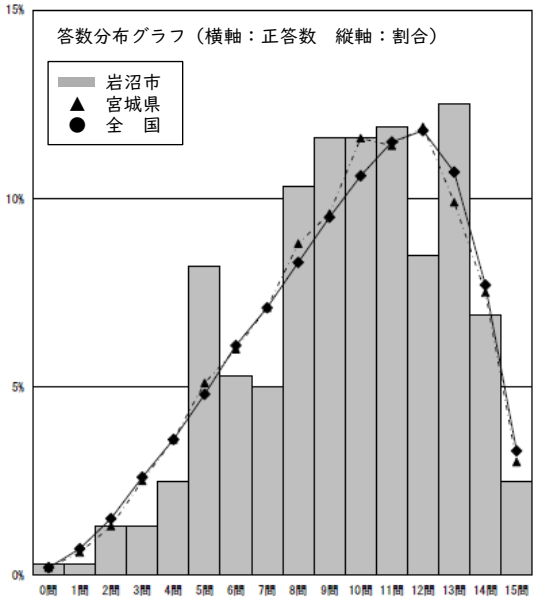
文部科学省は、子供の孤立や集団内での没頭・埋没を防ぎ、全ての子供の資質・能力を育むため、一斉・グループ・個別といった多様な学習形態を効果的に組み合わせる重要性を指摘しています。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子供の主体性を引き出す岩沼市の取組は、次世代の学校教育をリードするものといえます。保護者の皆様の御理解と御協力のもと、教員の日々の実践が実を結んできたとしています。



思考を整理し考えを伝え合う児童

④ 中学校の結果概要

中学校国語



全体傾向：全国レベルの学力をしっかり維持

岩沼市の中学生の平均正答率は 64%であり、（宮城県 64%、全国 63.9%）とほぼ同水準です。

あらゆる学力層において確かな成長が見られます。正答数 0～4 問の層が 5 問層へ、6・7 問層が 8～11 問層へ、さらに 12 問層が 13 問層へと、一段階上へと引き上げられていることがうかがえます。

正答数分布から見える岩沼市の「強み」

上位層の確かな厚みが見られます。13 問正答した生徒の割合は 12.5%に達しており、（宮城県 9.9%、全国 10.7%）を大きく上回っています。これは、安定して高い正答を出せる生徒がしっかりと育っています。

課題となる点

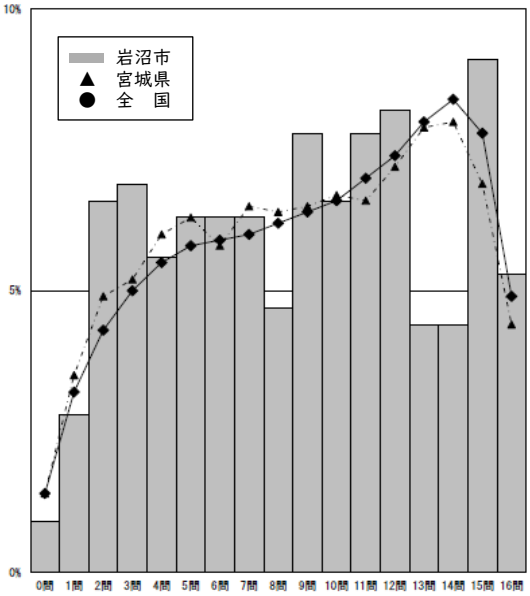
子供たちが粘り強く取り組むことで低正答層が少なく抑えられ、『5 問正答層』が厚くなっている点が現在の状況です。次のステップとして、この層の子供たちの学び方に寄り添い、もう一歩上の学力へと押し上げていくことが課題といえます。

【個別最適な学びを通じた「確かな国語力」の保障】

次期学習指導要領の検討を進める中央教育審議会における「論点整理」では、「多様な子供を誰一人取り残さない視点としての個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」や、言葉を通じて思考を深め、

生活や他者との関わりに生かす「確かな国語力」の習得が重要な方向性として示されています。中学校で上位層（13 問正答層：12.5%）が全国・宮城県平均を超えて厚くなっているのは、日々の言語活動の充実と丁寧な授業改善の成果です。今後は、文章の構造や情報の関係性を捉えることに躓きを感じている『5 問正答層』を中心とした生徒たちに対し、デジタル学習基盤等も学習者のツール（テキスト比較・推敲・共有ツール等）として積極的に活用しながら、読書機会の確保などをとおして、国語科における「中核的な概念（言葉の特徴や使い方、論理の構造等）」の深い理解へと導く個別最適なサポートをいかに講じるかが、全体の更なる底上げの鍵となると考えています。

中学校数学



高得点層の割合が県・全国を上回る

15 問、16 問の割合が岩沼市は 14.4%、（宮城県 11.3%、全国 12.7%）と高く、数学が「得意」といえる生徒が順調に育っています。

課題となる点

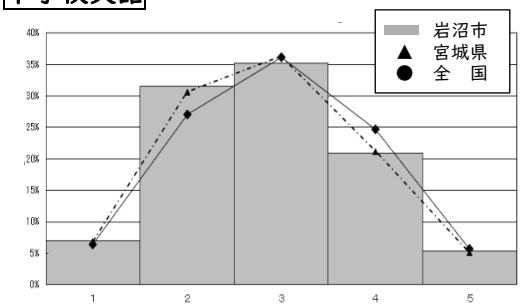
学力上位層がしっかりと力を伸ばしている一方で、数学の基礎・基本の定着に困難を抱えている層が一定数存在しており、集団として見た場合、「二極化」の兆しが見られます。

【個別最適な学びを通じた「確かな知識」の保障】

「論点整理」では、「多様な子供を誰一人取り残さない視点としての個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」や、「生きて働く『確かな知識』の習得」が重要な方向性として示されています。

岩沼市の中学校で 15 問正答の層がこれだけ厚く育っているのは、この方向性に基づく授業改善が身を結んだ結果です。今後は、基礎に躓きを感じている生徒に対して、デジタル学習基盤等を学習者のツールとして積極的に活用しながら、数学の「中核的な概念」の深い理解へと導く個別最適なサポートをいかに講じるかが、全体の更なる底上げの鍵となると考えています。

中学校英語



最も高い英語力を示す IRT バンド５層の厚み

岩沼市はこのトップ層が 5.3%を占め、宮城県の 5.1%を上回り、全国と同等の水準となっています。

※IRT バンドは、年度や問題セットによって生徒ごとに問題が異なる調査であっても正しく比較できるように、問題による難易度を公平にそろえてスコア化し、その結果を５段階のバンドで表したものです。詳しくは、関係資料をご覧ください。
https://www.mext.go.jp/content/20260902-mxt_chousa02-000035736-01.pdf

県全体と同水準のバランスの良さ

トップ層の生徒が育っている一方で、全体の平均点や各技能のスコアは県水準を割っておらず、英語の４技能がバランス良く育っています。

課題となる点

IRT バンド２が 31.6%であり、全国と比較して高水準となっています。バンド２は「基礎の定着」から「自律的な活用（バンド３以上）」へと向かう重要な移行期です。児童生徒の興味・関心や習熟度に応じた「個別最適な学び」を推進し、自律的に学習を調整する力を高める必要があります。

【個別最適な学びを通じた「確かな英語コミュニケーション能力」の保障】

文部科学省は、「誰一人取り残さない個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」や、言葉を通して考えを伝え合い、思考を深める外国語教育の重要性を示しています。岩沼市の中学校において、最上位

層の「IRT バンド 5（5.3%）」が県平均（5.1%）を超え、全国と同等に育っているのは、日々の言語活動の充実と丁寧な授業改善が効果的に機能しているからといえます。今後は、躓きを感じやすいボリューム層である「IRT バンド 2（31.6%）」の生徒たちへの手厚いサポートが鍵となります。端末の録音・推敲機能や音声・テキストの比較ツールなどのデジタル学習基盤を「学習者のツール」として活用し、語順や文構造といった英語科の「中核的な概念」の深い理解へと導くことで、全体の底上げと確かなコミュニケーション能力の向上を実現していく必要があります。

中学校意識調査

全国平均を上回った設問	岩沼市	宮城県	全　国
PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか（ほぼ毎日）	64.4%	37.1%	29.3%
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	44.7%	35.0%	37.4%
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	30.0%	26.6%	27.0%
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	31.9%	28.7%	29.3%
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	38.4%	35.4%	34.2%
国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか	36.3%	28.2%	25.5%

「自己調整」と「当事者意識」が創り出す学びの深化

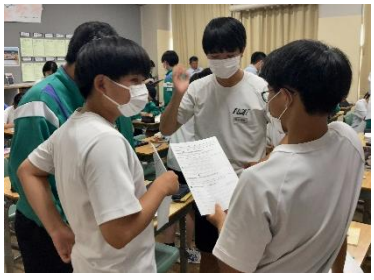
小学校で培われた「安心感」と「多様性の受容」を基盤に、中学校では自らの学びや行動を客観的に捉え、自ら軌道修正していく「自己調整力」が一段と高まっています。集団の中で自分の考えを粘り強く伝え合い、時に意見の対立を乗り越えながら合意形成を図る経験（他者との対話や協働）を通して、当事者意識が力強く育っています。

探究的な学びと「情報活用能力」の高度な横断

中学校では、各教科で得た「確かな知識」を単なる暗記にとどめず、現実の複雑な課題解決へ結び付ける「探究的な学び」が広がっています。特に、情報の真偽を見極めるメディアリテラシーや生成 AI を含むデジタル技術を適切に扱う力を自律的に発揮し、社会や生活のリアルな問題に対して自ら課題を設定し、科学的・論理的にアプローチする姿が見られます。個別最適な学びと協働的な学びを自ら往還させる姿は、次期学習指導要領が目指す「自らの人生を舵取りする力」そのものです。

非認知能力と認知能力の「相互向上（螺旋的成長）」

「自分ならできる」「仲間と一緒なら乗り越えられる」という見えない力（非認知能力）と、教科の学びで鍛える思考力・判断力・表現力（認知能力）は、互いを引き上げながら螺旋的に成長していきます。「失敗しても考え直せば大丈夫」というメタ認知力（自分を客観的に捉える力）があるからこそ、子供たちは未知の課題にも怖がらずに飛び込むことができます。中学校でのこの学びの深化こそが、自らの人生と未来の社会を切り拓く力につながります。



納得解を求めて対話し続ける生徒

中学校まとめ

文部科学省は、「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の３つの方向性を打ち出しています。その根本にあるのは、孤立した学びに陥ることも、集団の中に個が埋没することもなく、子供たち一人一人が「自らの人生を舵取りする力」を確かに獲得させたいという強い決意です。

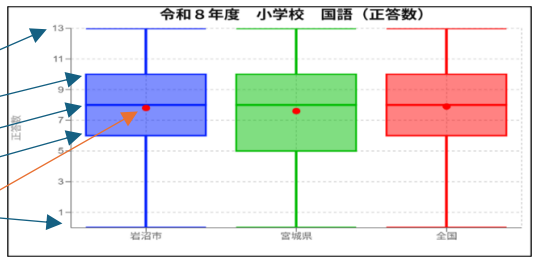
岩沼市の中学校では、日々の授業改善と GIGA スクール構想下のデジタル学習基盤の市内全中学校での活用が結実しつつあります。各教科で育む高度な思考力（認知能力）と、自分への誇りや仲間への信頼（非認知能力）とが響き合い、相互に高め合う「螺旋（らせん）的な好循環」を生み出すことで、国が目指す理念を、現場の豊かな実践によって先導的に具現化していると評価しています。

⑤ 関係資料（箱ひげ図）

※箱ひげ図(はこひげず)は、データのばらつきや偏りを「箱(25%~75%の分布)」と上下の「ひげ(線)(0~25%と 75%~100%の分布)」を図形で表したグラフです。箱の中にある線は中央値、赤い点が平均値を表しています。テストの点数など、たくさんのデータの分布や特徴を一目で把握する際に使われます。

小学校　国語（正答数）

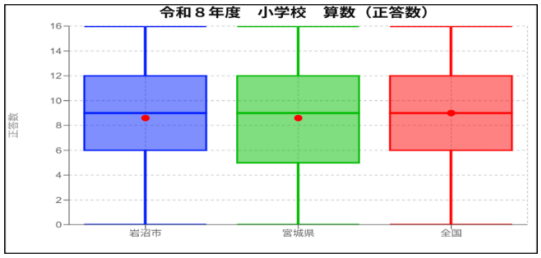
	岩沼市	宮城県（公立）	全国（公立）
最大値	13.0	13.0	13.0
△　第３四分位	10.0	10.0	10.0
◇　第２四分位	8.0	8.0	8.0
▽　第１四分位	6.0	5.0	6.0
最小値	0.0	0.0	0.0
平均正答数	7.8	7.6	7.9



中央値（8.0 問）や第 1 四分位（6.0 問）を見ても、宮城県の第 1 四分位（5.0 問）を上回る成果が出ています。四分位範囲（箱の長さ）も 4.0 問と大変コンパクトにまとまっており、どの学校・学級においても丁寧な指導が行われた結果、多くの児童が上位にまとまっているといえます。

小学校　算数（正答数）

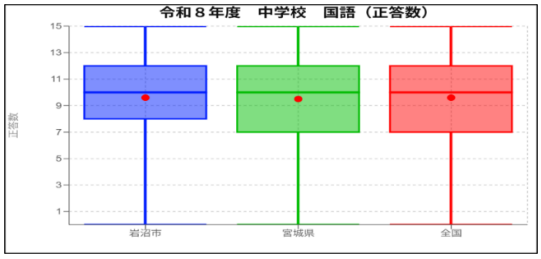
	岩沼市	宮城県（公立）	全国（公立）
最大値	16.0	16.0	16.0
△　第３四分位	12.0	12.0	12.0
◇　第２四分位	9.0	9.0	9.0
▽　第１四分位	6.0	6.0	6.0
最小値	0.0	0.0	0.0
平均正答数	8.6	8.7	9.0



第 1 四分位（6.0 問）、中央値（9.0 問）、第 3 四分位（12.0 問）のすべてにおいて全国と同水準にあります。箱の広がりは県と比較して上方にずれており、低得点層がしっかりと抑えられている点は「誰一人取り残さない教育」を進めている成果といえます。

中学校　国語（正答数）

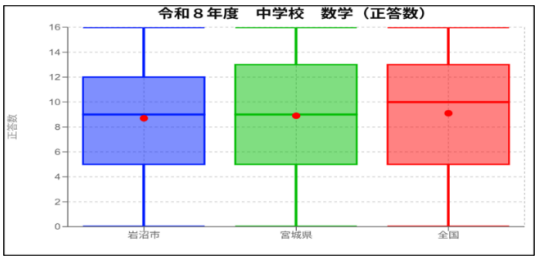
	岩沼市	宮城県（公立）	全国（公立）
最大値	15.0	15.0	15.0
△　第３四分位	12.0	12.0	12.0
◇　第２四分位	10.0	10.0	10.0
▽　第１四分位	8.0	7.0	7.0
最小値	0.0	0.0	0.0
平均正答数	9.6	9.5	9.6



第 1 四分位が 8.0 問と、県（7.0 問）や全国（7.0 問）を上回る結果を収めています。箱全体が県・全国と比較して上方に位置しており、全体的な学力の高さが見られます。

中学校　数学（正答数）

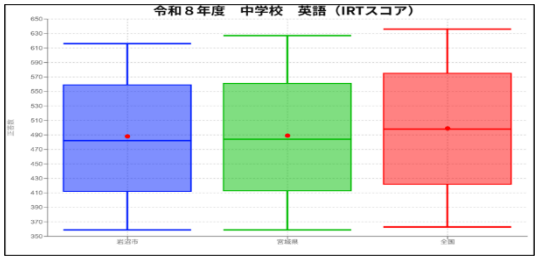
	岩沼市	宮城県（公立）	全国（公立）
最大値	16.0	16.0	16.0
△　第３四分位	12.0	13.0	13.0
◇　第２四分位	9.0	9.0	10.0
▽　第１四分位	5.0	5.0	5.0
最小値	0.0	0.0	0.0
平均正答数	8.7	8.9	9.1



第 1 四分位 5.0 問と、国・県と同等でしたが、第 3 四分位が 12.0 問と全国・県（13.0 問）より下がっており、上位層がやや伸び悩んでいます。多様な習熟度の生徒がそれぞれの位置で課題に向き合っていますが、中位層の引き上げが今後の課題といえます。

中学校　英語（IRTスコア）

		岩沼市	宮城県（公立）	全国（公立）
パーセンタイル値	90%	616	627	636
	△　75%	559	561	575
	◇　50%	482	484	498
	▽　25%	412	413	422
	10%	359	359	363
平均IRTスコア		488	489	499



平均 IRT スコアは 488 であり、宮城県（489）とほぼ同水準の結果となりました。中央値よりも平均値が高いことから、上位層が多く平均値を押し上げていると考えられます。上位層の維持と、中位層（バンド２）の引き上げが課題といえます。

⑥ 岩沼市教育委員会の対応について

（１）授業改善

① 「主体的・対話的で深い学び」の実現

岩沼市の児童生徒は、ICT を活用して自分の考えを整理し、仲間と意見を交わしながら学習に取り組んでいます。今後も一人一人が意欲を持って考えを深められるよう、授業の工夫を一層進めていきます。

② 課題解決・探究的な学び

「根拠を基に説明する力」や「グラフを読み取り記述する力」に重点を置き、答えを導くだけでなく、理由を明確にして考えを広げ深める学習を展開します。

③ 自己調整と選択のある学び（自由進度・選択的学習）

得意分野や自身の課題に応じて、子供が自分に合ったペースや方法を選択して学習を進める活動を引き続き取り入れます。成果や思考プロセスを共有し合うことで、個別最適な学びを協働的な学びへとつなげ、高め合っていきます。

④ 小中接続の強化・学びの連続性の確保

小学校で身に付けた「基礎的・概念的な知識」や「自律的な学習方法（学び方）」を中学校へと円滑につなぎ、学びの深まりを図ります。そのために、小中教員の相互参観や合同の授業研究を推進し、９年間で子供たちを育てる指導体制を確立します。

（２）学びの基盤としての ICT 活用と従来の学びのバランス

① 個別最適な学びを支える ICT

児童生徒が「自分は何を解決したいのか」という問いを持ち、学びを主体的に進められるようにします。ICT を活用し、学習方法や課題を選べる環境を整えることで、得意な子も苦手を感じる子も自分に合った方法で学習に取り組めるようにします。

② 協働的な学びを育む ICT

ドリル学習やアイデアを紙に書き出すといった従来の個の学び方も大切にしながら、ICT を用いて考えを可視化・共有し、多様な他者の視点から学び取る授業を進めます。試行錯誤や意見の修正を前向きに捉え、協働して納得解を作り出す対話的な学びを推進します。

（３）自律的な家庭学習

① 自立した学習者の育成

子供たちの発達段階に応じ、「みんなと同じものを一律に課される宿題」から「自分の目標や計画に基づいて自ら創り出す宿題」へと発達段階に応じ少しずつ転換します。「自分にとって今、本当に必要な学習は何か？」を自ら考え、計画し、やり抜く経験。この「自律した学び」の積み重ねこそが、自分らしく切り拓く「自立した人間」としての成長へとつながっていきます。

② 探究的な家庭学習

複数の知識を関連付けたり、教科を横断した学びに取り組んだりすることで、将来につながる学習習慣の定着を図ります。

（４）主体的な学びを誘発する豊かな機会の提供

①「好き」「得意」から始まる動機づけ

「いわぬまこどもポータル」にある「岩沼学び塾」「いわちゃれタイピング」を通じ、子供たちの「学びたい」「挑戦したい」という意欲を育むとともに、日々の自律的な学びをしっかり支えていきます。



席を増やす熱気！『岩沼学び塾』

② 多様な体験とアウトプットの充実

自分の考えを表現する「岩沼市プレゼンテーションコンクール」、他地域との交流を通じた「南国市訪問団」、異文化や言語に親しむ「English Day」などの機会を充実させ、子供たちが自らの世界や可能性を広げられる環境を整えます。



岩沼市プレゼンテーションコンクール

（５）教師の指導力向上

① 学習指導要領の理解と実践

教科ごとの目標を確認し、単元で育てる力を明確にします。授業では正しい言葉や記号を用いさせ、学習の振り返りを大切にします。

② 単元構造化（単元デザイン）

単元全体を構造的に捉え、基礎・基本の確実な定着には一斉指導を効果的に配置します。一方で、児童生徒が主体的に課題を設定し深く追究する場面では、個別最適な学びや協働的な学びへとスムーズに移行するなど、単元全体をデザインしたメリハリのある授業展開を目指します。

個別最適な学びと協働的な学びを ICT で一体的に支える取り組みを進めてきた結果、子供たちの学習意欲や情報活用力に確かな成果が表れ始めています。岩沼市教育委員会の目指す「自立した学習者の育成」は、確実に正しい軌道に乗っています。この手応えを揺るぎない確信に変え、更に一歩先へと推し進めます。

なお、関係資料については以下をご覧ください。

全国学力学習状況調査
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html）

CBT・IRT について
（https://www.mext.go.jp/content/20260902-mxt_chousa02-000035736-01.pdf）

教育課程企画特別部会における「論点整理」について（報告）
（https://www.mext.go.jp/b_menu/shing i/chukyo/c hukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html）

文部科学省リーディング DX スクール
（https://leadingdxschool.mext.go.jp/achieve/jirei/page/4/）